**イルカ団!×鷺沢萠**

**Les Deux Herons**

**『ウェルカム・ホーム!』＆『ばら色の人生』**

**公演概要**

**鷺沢萠が、一番伝えたかったこと。**

**家族、友人、仲間たちの、あたたかくて強い絆の物語。**

小説家鷺沢萠氏と脚本家小林ヒデタケが共同で執筆した戯曲

『ウェルカム・ホーム!』＆『ばら色の人生』の二本立て!!!!!

2016.8.30～9.05　ウッディシアター中目黒

**イントロダクション**

　『川べりの道』で文学界新人賞を受賞後、数多くの作品を書き遺した小説家鷺沢萠。

　「家族」や「人の繋がり」をテーマにした作品が多く、その評価も高い。

そんな彼女は、脚本も執筆している。小説とは違った作風で、ライフワークとなっていた「国籍」や「差別」といったテーマをエッセンスとして織り込んだコメディを書いている。

　三作とも、イルカ団!の主宰である脚本家小林ヒデタケとの共作によるもの。

そのうちの二作品を上演する。

　『ウェルカム・ホーム!』は9年振り、『ばら色の人生』は15年振りの再演となる。

**キャスト**

**「ウェルカム・ホーム!」**

元木行哉（デッドストックユニオン/㈱シーグリーン）

渡辺隼斗（ジャパンアクションエンタープライズ）

高橋あゆみ（長良マネジメント）

よっし

後藤星羅（演劇集団0LIMIT）

飯島翔太（劇団ベイビーベイビーベイベー）

上村悠輔

本多一生

渡辺大滋

**「ばら色の人生」**

中條孝紀（ヒエロマネジメント）

後藤真一

喜多真也

島名ひとみ

二宮清隆

盛山小春

本多一生

**スタッフ**

原案・脚本/鷺沢萠（新潮社刊『ウェルカム・ホーム!』）

脚本・演出/小林ヒデタケ

照明/尾崎純子（ALOP）

音響/ 土屋由紀

舞台監督/山田剛史

デザイン/中塚健仁

企画・製作/イルカ団CO.
協力/長良マネジメント、JAE、デッドストックユニオン、㈱シーグリーン、ヒエロマネジメント、演劇集団0LIMIT、劇団ベイビーベイビーベイベー、藤プロダクション

**鷺沢萠**Megumu Sagisawa

[87年](https://ja.wikipedia.org/wiki/1987%E5%B9%B4)、「川べりの道」で第64回[文学界新人賞](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%87%E5%AD%A6%E7%95%8C%E6%96%B0%E4%BA%BA%E8%B3%9E)を受賞、女子大生小説家としてデビュー。

以降、小説、エッセイなどを執筆。著作多数。

TBS『ブロードキャスター』コメンテーター等、テレビやラジオでも活躍。

92年、『駆ける少年』で第20回[泉鏡花文学賞](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B3%89%E9%8F%A1%E8%8A%B1%E6%96%87%E5%AD%A6%E8%B3%9E)を受賞。

96年『[大統領のクリスマスツリー](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E7%B5%B1%E9%A0%98%E3%81%AE%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%9E%E3%82%B9%E3%83%84%E3%83%AA%E3%83%BC)』（製作・配給：松竹 主演：羽田美智子）映画化。

98年『F 落第生』（製作・配給：松竹 主演：羽田美智子）映画化。

04年、急逝。

06年、『[春の居場所](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%A5%E3%81%AE%E5%B1%85%E5%A0%B4%E6%89%80)』（製作・配給：カエルカフェ　主演：堀北真希）映画化。

**概要**

公演タイトル　「ウェルカム・ホーム!」＆「ばら色の人生」

公演日時　2016.8.30～9.05

公演劇場　ウッディシアター中目黒

〒153-0051

東京都目黒区上目黒2-43-5キャトルセゾンB1F

03-3791-6566

公演回数　14ステージ

タイムテーブル

8月

30日(火)…　　　　　 19:30（B）

31日(水)…16:00（B）/19:30（W）

9月

1日(木)…14:00（W）/19:30（B）

2日(金)…14:00（B）/19:30（W）

3日(土)…13:00（W）/16:30（B）/19:30（W）

4日(日)…13:00（W）/17:00（B）

5日(月)…13:00（B）/18:00（W）

（W）『ウェルカム・ホーム!』

（B）『ばら色の人生』

受付開始・開場　開演３０分前

料　金　\3,900　日時指定　全席自由　前売当日共

　　　　¥4,500　パンフレット付き　日時指定　全席自由　前売（カンフェティでのみ取り扱い）

\2,700　高校生以下

（受付にて年齢が分かるものをご提示ください。学生証など）

　　　　\2,700　リピーター割

（受付にて半券をご提示ください。）

チケット発売　7月14日

取り扱い　カンフェティhttp://confetti-web.com/

　　　　　　　　　　　0120-240-540（受付時間　平日10：00～18：00）

チケット予約フォーム　https://www.quartet-online.net/ticket/sqnpl4h

問い合わせ イルカ団Co. http://www.maroon.dti.ne.jp/ratatattat/

03-5430-7516

ratatattat@dream.jp

**『ウェルカム・ホーム!』**

**ストーリー**

　付き合って半年、意を決してプロポーズする安志。涙ながらに受ける映子。

それは安志が夢に見ていた光景だった。

そんな幸せを噛み締めながら、緊張感が拭えない安志。
　「やっぱりエーコのご両親に挨拶はしとくべきだろ」
　挨拶に訪れた安志を待っていたのは、あまりにも『フツー』じゃない家族たち!!!!!!!!

鷺沢萠×イルカ団!のコメディ第三弾!!!!!! そして鷺沢萠の最後の作品。　9年振りの再演!!!!!!!!

**鷺沢氏のコメント**（初演パンフレットより）

「家族」って何でしょう？
「ふつう」って何でしょう？
「ふつうの家族」って何でしょう？
「ずっと一緒に生きていきましょ」って、約束すればいいだけなのに、なんで「婚姻届」を出すんでしょう？

口約束だけじゃ不安だから？

だけど、「約束」さえも守れない人と「婚姻」することのほうが、よっぽど不安じゃないですか？
　「血は水よりも濃し」なんて、なんでわざわざ言うんでしょう？血がつながってる、ってそんなに重要なことですか？

血なんかつながってようがつながってまいが、心さえあれば、一緒に暮らしてる人と仲良くしたいのはあたり前。
　「婚姻」なんかしてなくたって、血なんかつながってなくたって、家に帰ってきたときに、こう言ってくれる人が、たぶんあなたのほんとの家族。

「おかえりなさい」

2004年初演。鷺沢氏の遺作となる脚本。

未完であった脚本を、共同脚本と演出を担当していた小林ヒデタケが続きを執筆し、上演。

2007年、ウッディシアター中目黒10周年記念公演として、キャストを一新して再演。

今回は三度目の上演となる。

作品社『鷺沢萠戯曲集ばら色の人生』に収録。

**『ばら色の人生』**

**ストーリー**

株式会社星山食品を襲った倒産の危機!!!!!

しかも社長は行方不明!!!!金庫にあったはずのニ百万円もなくなってる!!!!ということは……!?

社員たちは売れ残った商品四百箱を運び出し中!!!!!!
そんなとき、社長が帰って来た。二百万円分の馬券とともに……。

果たして、馬券は当たるのか？いや、段ボール箱は運び終わるのか？いやいや、倒産でしょ。問題は!!!!!

鷺沢萠×イルカ団!のコメディ第一作!!!!!! にして鷺沢萠初の戯曲!!!!!!!　15年振りの再演!!!!!!!!

**鷺沢氏のコメント**（初演パンフレットより）

『Mr.レディ・Mr.マダム』のハリウッド版リメイク、『バードケージ』をご覧になっただろうか。

監督はマイク・ニコルズ。出演はロビン・ウィリアムズ、ジーン・ハックマンら。芸達者な役者たちが余裕たっぷりに演じるドタバタ喜劇は、一般的には「肩のこらないコメディー映画」としてカテゴライズされるものだと思う。

おそらく、「感動的」な映画ではない。しかし私がこの映画を見たとき感じたのは、明らかに「感動」と呼ばれる種類のものだった。
　『バードケージ』で描かれるのは差別感情の滑稽さである。マジョリティーとマイノリティーのあいだに生じる摩擦や軋轢が、ごくふつうに「ギャグ」として成立している。

それは、差別という感覚自体――それが障害者差別であれ民族差別であれ宗教差別であれ性差別であれ――を、十把ひとからげにして、ひたすら「存在しないもの」として扱う文化の中ではとうてい無理なことであるように思えた。
　そんなふうに「とうてい無理なこと」を、どうしてもやってみたかった。まずは、必要以上に力まず、必要以上に深刻ぶらず、「存在するもの」をただ「存在するもの」として認めてみたかった。
　そういう思いが、この作品を生んだ。

鷺沢氏が書いた初の戯曲。

1998年、『ラフカット98』のオムニバスの一本として初演（演出：高橋いさを）。

2001年、小林ヒデタケとの共作で長編に書き直し、鷺沢萠プロデュースとして上演。

2014年、シアターKASSAI企画公演『クジカンキカク』で上演。

作品社『鷺沢萠戯曲集ばら色の人生』に収録。